

平成17年度第2回音環境運営委員会 議事録

記録：古賀

A. 日時 2005年8月19日

B. 場所 建築会館304室

C. 出席者 平松友孝, 赤尾伸一, 井上勝夫, 岩瀬昭雄, 大鶴徹, 岸永伸二, 古賀貴士,

坂本慎一, 中川清, 中澤真司, 羽染武則, 藤本一壽, 安岡博人

欠席者 河井康人, 佐久間哲哉, 佐藤哲身, 濱田幸雄, 吉村純一

D. 提出資料

No. 2-1 平成17年度第1回音環境運営委員会議事録(案)

No. 2-2 音環境運営委員会関連委員会・WG委員名簿

No. 2-3 2005年度大2回環境工学本委員会資料抜粋

No. 2-4 小委員会評価システムと環境工学シンポジウムのあり方についてのアンケート

No. 2-5 旧音環境小委員会からの報告, 日本音響学会騒音・振動研究会予定

No. 2-6 建築設計資料集成委員会 環境部会/編集WG合同 議事録(案)

No. 2-7 日本音響学会建築音響研究会予定

E. 審議事項

1. 前回議事録確認：資料No.2-1(中澤)

- ・組織図に関し「環境工学委員会に名称が変わった」とあるが、「環境工学本委員会」が正式名称であることを確認した。修正のこと。
- ・建築音響研究会の10月以降の予定は、「未定」に修正のこと。

2. 関連委員会の名簿確認：資料No.2-2(平松)

- ・環境設計運営委員会>教育施設小委員会の委員構成を福地氏(永田音響)に確認する。
- ・環境設計運営委員会>環境アセスメント小委員会に藤本委員, 大鶴委員が参加。
- ・音環境アカデミック・スタンダードWGは, 企画刊行運営委傘下ではなく音環境運営委傘下であるので修正のこと。
- ・全体像を把握するため, 建築設計資料集成委員会の関連WG等もこの名簿に加えることとする。

3. 環境工学本委員会報告：資料No.2-3(平松)

- ・特別研究委員会の設置希望があれば、9/28迄に平松主査へMailのこと。
- ・「国交省における技術開発の今後の重点化について(意見募集)」に対し、「都市環境騒音の緩和」を追加するよう、平松主査個人名で提出した。
- ・予算配分方法：環境全体では増だが、音環境は減。
- ・2005年大会研究協議会「ワールドワイドな建築環境工学の研究・開発」, 9月2日(金)13:30~17:00。パネリスト, 佐久間委員
- ・2005年大会環境工学部門懇親会, 9月2日(金)18:15~20:30, パノラマスカイレス
トランアサヒ。
- ・教材改訂WG：改訂の対象を検討する予定。11月~12月頃に各運営委員会へ協力要請の予定。
- ・

4. 本委員会重点審議項目に対する意見について：資料No.2-4

- ・アンケート調査結果の報告があった。
- 1)環境工学シンポジウム
有効回答数12件のうち、「現状のシンポジウムを改善し継続」が10。
- 2)小委員会評価システム
・ボランティアといえども、交通費という予算がついており、それに対する義務が発生するというのが、加藤委員長の意見。
- ・「何のために評価するのか」が明確でない。次回本委員会にて確認する。

5. 小委員会・WG活動報告

- 音響数値解析小委員会(大鶴)
 - ・InterNoise2005会期中に小ミーティングを実施。次回は、9月末頃を予定。
 - ・手法により結果に特徴の出るような対象について解析を実施し、シンポジウムを
開催の予定。
- 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会(羽染)
 - ・第2回：6/24, 第3回：8/5。デベロッパー出向き評価水準に関するヒアリングを
実施中。メンバー交代等により予定より遅れているが10社超のヒアリング終了。
学会に期待する生の声が集まってきている。
- 固体音小委員会(平松)
 - ・7/25：シンポジウム「床衝撃音の今後を考える」開催。参加者88名(発表者除

く)。

6/30：シンポジウム原稿読み合わせ。8/3：シンポジウムの成果を受け、ゴム
ボー

ルの利用可能性についてキーワード抽出。ボールを使った聴感評価実験の実施
方法

について検討した。

○建築音響測定法小委員会(赤尾)

・7/14：3つの分科会をつくり、それぞれ活動を始めている。

○室内音響小委員会(岸永)

・6/24：「活性化」をテーマとした議論。毎回、プレゼンテーションを実施予
定。

次回9月は、岸永主査が担当。「活動プラン」を次回打ち合わせ予定。11月は
音響

学会・建築音響研究会と合同で開催の予定。

・音響指標WG：昨年度実施した測定大会のデータを分析中

・音声伝送WG：評価基準を作成する。今年度シンポジウムを計画中。

○企画・広報WG(中川)

・過去の出版物の一覧表を作成。書評を作成の予定。

・建築音響の重要性を社会に認識させるべく議論中。次回：9/8。

○音環境アカデミックスタンダードWG(代：平松)

・7/20:アカデミックスタンダード作成の可能性を検討中。JISに整合していない
「赤本」の改訂、あるいは、音声伝送WGの成果を受けて「公共空間」を対象
に

する予定。

6.その他

○建築設計資料集成(資料No.2-6,坂本)

拡張編を電子媒体とする計画から、冊子主体としCD-Rを付属させる形に変更
と

し作業を再開する。環境以外は拡張編も含め全て出版されている。

○旧音環境小委員会からの報告(資料No.2-7,藤本)

建築雑誌(2005.8)にSMILE2004の紹介記事が掲載された。

○日本音響学会騒音・振動研究会予定(資料No.2-7,藤本)

10/28北海学園大, 11/28金沢工大, 12/16九州大学

○日本音響学会建築音響研究会予定(資料No.2-8,大鶴)

10/24東西大学(韓国・釜山), 11/25大林組本社, 12月中旬東京

次回10月13日 17:00～